

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

グローバル人材育成院

部局長名：

荒木 勝

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上、女性教員や外国人教員など教員組織の多様性を含む)について ・教育方法・内容について ・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について ・学生支援について ・国際共同による教育の状況について ・外国人留学生の受入状況について ・その他 	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・研究水準及び研究成果等について ・研究実施体制等の整備について ・国際共同による研究の状況について ・女性・外国人研究者の受入状況について ・外国研究機関における研究従事状況について ・その他 	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との連携、社会貢献について ・国際交流・協力について ・その他 	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④センター業務	自己評価
④-1 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から実施する新カリキュラムの効果について検証する。 ・グローバル人材育成特別コース定員の増加に対応するためのコース設計の見直しを行う。 ・グローバル人材育成特別コース生が各学部の先進的なグループとして全学に及ぼす波及効果について検証する。 	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・新生を対象にガイダンス科目「グローバル人材育成特別コース入門」を単位化して新規に開講し、副専攻としてのコースの概要およびカリキュラムなどの教育内容を説明し、特別コースの魅力積極的に紹介した。また、7月には2次募集を行い、その結果、平成28年度の定員100名の履修者を確保した。さらに、前年度、試行的に留学帰国者向けに外文機関の在職者や社会起業家を招聘した特別セミナーシリーズを「グローバルスタディズ3」として新たに単位化して開講するなど、カリキュラムの充実を図った。 ・本コースの教育効果の検証を行うため、平成28年度入学生(第4期生)に対し、10月(第1・2学期履修分)と1月(第3・4学期履修分)に履修アンケート調査を実施した。これまでの結果とその分析を踏まえ、今後のコース履修者のさらなる定員増加や現状のカリキュラムの問題に対応するため、平成29年度以降のコース構成およびカリキュラム改訂を行った。 ・平成25年度入学生(第1期生)に対するコース履修前と履修後の自己成長評価アンケート調査、およびグローバル人材としての基盤となる思考力を客観的に測定するアセスメントテストを実施した。 ・履修アドバイザー情報交換会を開催し(7月・12月)、第1期生のコース修了見込みや現状の問題点を共有した。各学部・コースと育成院が連携し、学生をサポートした結果、卒業生23名のうち、15名がコース修了することとなった。本コースで修得した知識や経験、また専門分野の知識を活かし、外務省や大手企業、民間企業の国際部門への就職や大学院進学が決定している。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	④-2 大学全体への貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材育成特別コース生は、所属する各学部・コースにおいて主専攻を学ぶとともに、グローバルに活躍できる中核的人材になることを目指し、「副専攻」のカリキュラムに則してグローバル人材に必要な能力を身につける。現在、約300名の学生が本コースを履修し、各学部・コースにおいてグローバルな能力を身につけた先進的なグループとして活躍し、周囲の学生に多くの影響を与えることにより、全学的な底上げに貢献している。 ・各学部等に所属する本コースの平成25年度入学生(第1期生)は、自己成長評価アンケート調査及びアセスメントテストの結果、グローバルな意思決定やコミュニケーション能力等を着実に身につけている。 ・平成25年度入学生(第1期生)は、外務省の専門職として採用されるなど、大手企業、民間企業の国際部門への就職や大学院進学し、大学全体のコンピテンシーの向上につながっている。 ・本コースは、海外語学研修と海外留学・インターンシップを義務づけており、大学全体のアウトバウンドに貢献している。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 グローバル人材育成特別コースの定員と現員 グローバル人材育成特別コースの学部等別履修申請者数とコース修了者数 グローバル人材育成特別コースのカリキュラム表、シラバス、履修案内 グローバル人材育成特別コースの開設科目別履修登録者数 グローバル人材育成特別コースのサマースプリングプログラムと海外留学・インターンシップの整備状況 グローバル人材育成特別コースのグローバルコア2(各学部開講科目)の整備状況 グローバル人材育成特別コースにおけるICT活用状況 グローバル人材育成特別コース履修者に対するアンケート グローバル人材育成特別コース履修者のTOEIC-IP点数 グローバル人材育成特別コース履修者の単位修得状況と就職内定ならびに進学先	別紙を参照のこと。
【総括記述欄】	
<ul style="list-style-type: none"> ・コース定員の増加に伴う学生への指導体制は、各学部・コースと基幹教育センターの履修アドバイザーによる個人面談のほか、育成院の教員2人で平成28年度入学生(第4期生)及び上級生で留学先が決定していない学生を中心に個人面談を実施し、本コースの履修状況および今後の履修計画とキャリアプランを確認した。また、カリキュラムの編成上、未取得の科目があった4年生の学生に対して、その科目を特別開講するなどの措置により、卒業生23名のうち、15名が本コースを修了することができた。 ・今年度修了した平成25年度入学生(第1期生)は、自己成長評価アンケート調査及びアセスメントテストの結果、グローバルな意思決定やコミュニケーション能力等を着実に身につけている。また、就職先として、外務省の専門職として採用されるなど、大手企業、民間企業の国際部門への就職や大学院に進学し、大学全体のコンピテンシーの向上につながっている。 ・カリキュラムについては、平成30年度からコース定員が150名に増加するのを見据え、カリキュラムの大幅な見直しを行い、コースを学生のニーズ及びレベルにより4つのグループに分けた。 ・60分・4学期制の利点をより一層活用するため、時間割の大幅な見直しを行い、講義の1単位化と選択科目の増加など、学生のニーズに応じた科目設定を行う予定である。 ・アセスメントテストの結果、論理的・批判的能力、問題解決能力など能力のさらなる強化が必要であり、これらの能力を養成するカリキュラムについて検討する予定である。 ・8月以降にグローバル・ディスカバリープログラムを担当する教員9名を任用し、グローバル・ディスカバリープログラムの立ち上げに向けたカリキュラムの検討や学生のリクルート、入試制度設計・実施等に関与した。平成28年度実施の国際入試では、15カ国から定員の2倍を超える54名の応募者を得る等、平成29年10月の学生受入開始に向けて順調に進めることができた。 	